きやすいカミキリであるにもかかわらず採集例を聞かなかったことも併せて考えれば，本種が佐渡島に侵入したのは比較的最近の可能性がある．

なお，同じ日本海上に浮かぶ粟島では本種はすでに記録されている（草刈広一，1998．月刊むし 334：13–14）．

（永幡嘉之　990-0057　山形市宮町 5-9-50）
（鎌苅哲二　224-0001　横浜市都筑区中川 1-2, A-1405）
（高桑正敏　250-0031　小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館）

【短報】北海道で得た日本未記録のケシキスイ

北海道で日本未記録のケシキスイを採集したのでここに報告する．同定は Sjöberg (1939), Kirejtshuk (1992) や画像などを参考に筆者がおこなったが，久松定智氏に確認をお願いした．厚く御礼申し上げる．

キタヒラタケシキスイ（和名新称）*Epuraea* (*Epuraea*) *rufobrunnea* Sjöberg，1939

9exs.，北海道新得町トムラウシ温泉周辺，25. VII. 2011，筆者採集（4exs. は久松保管，他は筆者保管）．

体長 3.2–4.2 mm．フィンランドから記載された．黒褐色で，前胸背板および上翅の外縁，頭部，肢などは黄褐色．表面に長くて細い毛をそなえる．前胸背板は横長で，前方へ向けて強く狭まる．上翅は長く幅の約 1.5 倍，側縁はほぼ平行．全ての脛節外角に突起がある．

分布：北海道；ロシア，ヨーロッパ．

図1．キタヒラタケシキスイ．

引用文献

Kirejtshuk, A. G., 1992. Nitidulidae. 極東ロシア昆虫分類検索誌，第 3 巻甲虫目，第 2 分冊，pp.114–209. ナウカ出版，サンクトペテルブルグ．（露文）

Sjöberg, O., 1939. Beitrag zur Kenntnis der Gattung *Epuraea* Er. (Col., Nitidulidae). Bestimmungstabelle der paläearktische Arten. Entomol. Tidskr., 60: 108–126.

（平野幸彦　250-0865　小田原市蓮正寺 585-29）

【短報】柴色のオオアオカミキリ

オオアオカミキリ *Chloridolum* (*Chloridolum*) *thaliodes* Bates, 1884 は，日本および朝鮮半島，中国東北部に広く分布する大型のアオカミキリで，通常の個体では，頭部と上翅は青緑色，前胸背板は青緑色から銅緑色，まれに紫色となる（新里，2007）．この色彩には，「日本海側のサワグルミをのみを食べる個体群のほうが青みが強く，太平洋側のオニグルミを食べる個体群には褐色を帯びる個体が目立つ」など，出現頻度や境界の不明瞭な変異があるという（永幡，2010）．

Bentanachs *et al*. (2011) は，日本（Kioto）から記載されていながら長い間不明種として扱われていた *Aromia japonica* Podaný, 1968 が，実はオオアオカミキリの暗紫色の色彩変異個体であったことを，両種のタイプ標本を検討することによって明らかにした．オオアオカミキリの暗紫色の色彩変異は従来知られていなかったが，同論文には秋田勝己氏（私信）が，同様の柴色の変異個体を実見していることにも簡単に触れている．しかし，いずれにしても，紫色のオオアオカミキリは，*Aromia japonica* のホロタイプ標本以外に公に知られていない．

最近，官能健次氏のご厚意により，同氏が木曽御岳で採集された柴色のオオアオカミキリを実見することができた．全形の原色写真を図示して，記録を書きとめておく．

検視標本：オオアオカミキリ：1♂，岐阜県木曽御岳（日向～本巣），16–VII–1992，官能健次採集（新里標本保管）．

検視個体の色彩は次の通り．体背面は広く紫色で光沢が鈍く，頭部は頭盾や後頭が部分的に青緑色，上翅は縫合部周辺が背面から見たときにかすかに青みがかる．体腹面は紫色の前胸腹板を除き暗青緑色で光沢は鈍い．触角と肢は黒色．

図1．紫色のオオアオカミキリ．

貴重な標本を検する機会を与えられた